

# BEST AVAILABLE COPY

(3) JP 49-91767 U  
Publication date: Aug. 8, 1974

< Description on the Relevance >

This is a document cited in the Office Action of the basic Japanese Patent Application.

(Abstract)

A projection 7 slides in a helical groove 3 by rotating a driving axis rod 1, thereby a states of contacts which a switch have is changed due to a moving piece 4 is sliding.

## ①日本国特許庁

②日本分類  
SS H 52

## 公開実用新案公報

③実開昭 49-91767

内査理番号 7365-52

④公開 昭 49(1974)-8. 8

審査請求 未請求

## ⑤スイッチの駆動装置

⑥実 稟 昭 47-137433  
 ⑦出 願 昭 47(1972)11月29日  
 ⑧考 察 者 足立一之  
 調布市布田2の46の2  
 ⑨出 稟 人 三省電機株式会社  
 東京都品川区荏原5の11の13  
 ⑩代 理 人 弁理士 福地実

長円形なる突起(以下突起と称する)を設け前記構に対向位置ならしめ、該突起の両側縁を平行縁ならしめ、該平行縁の間隔を該溝幅開きと等しい間隔とし該両側縁が該溝の両側の内縁に対接し滑動自在に嵌合せしめてなるスイッチの駆動装置。

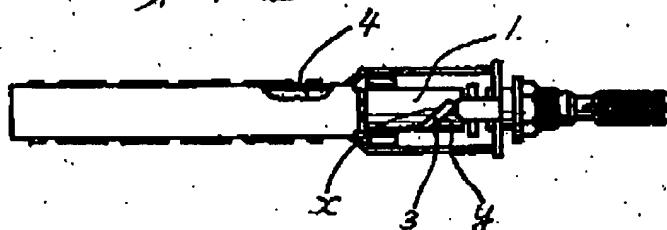
## 図面の簡単な説明

第1図は本願スイッチの組立たる1部切欠上面図。第2図は駆動軸杆に溝を設けた図。第3図は動作片に連結部を設けたる正面図。第4図は1部切欠側面図。第5図は駆動軸杆の溝と連結部に設けた突起との関連をわかりやすく図示した図である。1は駆動軸杆、3は溝、4は動作片、5は連結部、7は連結用の長円形突起、cはa、b間の間隔、dは溝の幅、x、yは溝の内縁である。

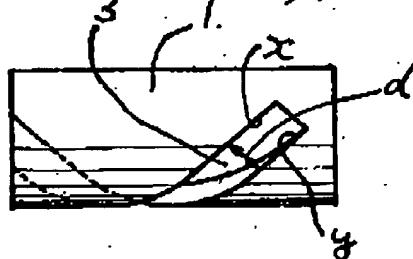
## ⑪実用新案登録請求文の範囲

図面に示せる如く駆動軸杆の外周に輻歛方向に斜に回動滑動溝(以下溝と称する)を穿設せしめ該溝は屈曲したる時直線状となる様になさしめたる該駆動軸杆を、スイッチの接点切換する動作片に連結部を設け該連結部端の内底中央に連結用の

第1図

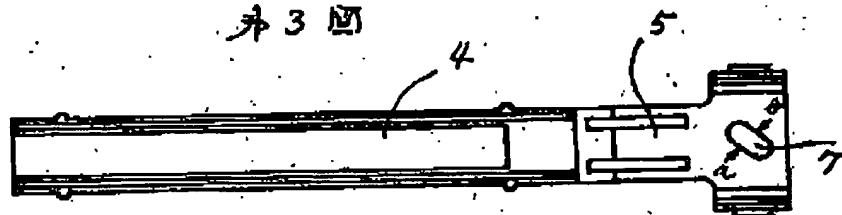


第2図

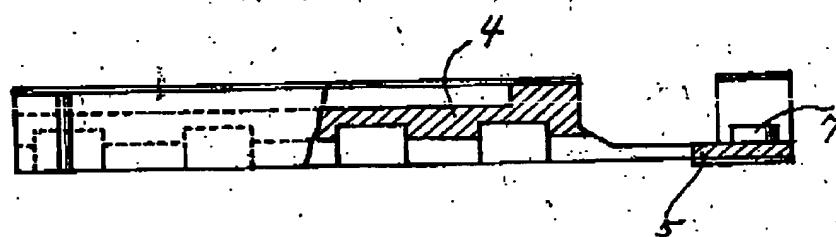


実用 昭49-91767(2)

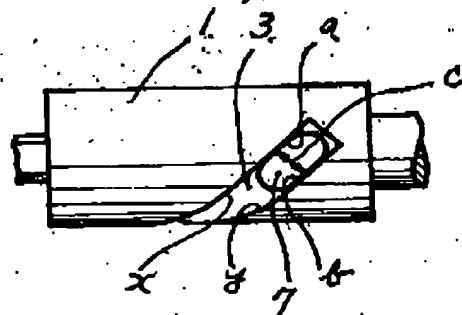
第3圖



第4圖



第5圖



## 公開実用 昭和49—91767



(1,500円)

## 実用新案登録願 (I)

昭和47年11月29日

特許庁長官 殿

クドウソウチ

1. 考案の名称 スイッチの駆動装置

2. 考案者

住 所 東京都調布市布田2-46-2  
 氏 名 足立一之

3. 実用新案登録出願人

住 所 東京都品川区荏原5丁目11番13号  
 氏 名 三省電機株式会社  
 (国籍) 取締役社長 鈴木 増金

4. 代理人

住 所 東京都文京区千石4-35-6  
 氏 名弁理士(3349) 福地 寛  
 (TEL 941-6718)

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1 通
(2) 図面	1 通
(3) 願書副本	1 通
(4) 委任状	1 通
(5) 請求延長書	1 通

11-13713

**公開実用 昭和49-91767****明細書****1. 考案の名称 スイッチの駆動装置****2. 実用新案登録請求の範囲**

図面に示せる如く駆動軸杆(1)の外周に軸線方向に斜に回動滑動構(3)を穿設せしめ該構は展開したる時直線状となる様になさしめたる該駆動軸杆を、スイッチの接点切換する動作片(4)に連結部を設け該連結部端の内底中央に連結用の長円形なる突起(7)を設け前記構に対向位置ならしめ、該突起の両側縁を平行縁ならしめ、該平行縁の間隔を該構巾間隔と等しい間隔とし該両側縁が該構の両側の内壁に対嵌し滑動自在に嵌合せしめてなるスイッチの駆動装置。

**3. 考案の詳細な説明**

本考案は駆動軸杆(1)（以下軸杆と称する）の外周に、軸線方向に斜に回動滑動構(3)を穿設せしめ、該構は展開したる時直線状となる様になさしめたる該軸杆を、スイッチの接点切換する動作片(4)に連結部(5)を設け、該連結部(5)端の内底中央に連結用の長円形突起(7)を設け、前記構(3)に対向位置ならしめ該突起(7)の両側縁(a)(b)を平行縁ならしめ、該平行縁の間隔(c)を該構(3)巾間隔(d)と等しい間隔とし、該両

側縁(a)(b)が該構(3)の両側の内縁(x)(y)に対接し滑動自在に嵌合せしめてなるスイッチにおいて、駆動軸杆(1)を回動せしめることにより前記突起(7)が該構(3)内を滑動し動作片(4)は滑動しスイッチの接点切換(図示してない)をなるしめることを特徴とするスイッチの駆動装置に係るものである。  
上述の如く構成されているので駆動杆(1)を回動すると駆動杆に設けた構(3)が回動し該構(3)内に嵌合されている突起(7)の内側縁(a)(b)が、構(3)の縁(x)(y)にて押されて構(3)内を回動するから駆動杆(1)が右回動の時は左へ、(図において)動作片(4)は進行し、左回動の時は右へ動作片(4)は進行するので、これによりスイッチの接点が切換えられるのである。この駆動杆(1)の回動により構(3)にて突起(7)を押し滑動し前進、後退ならしめる際に該構内に突起(7)の両側縁(a)(b)は平行ならしめてあり且つ構(3)巾間端(c)と突起(7)の平行縁(a)(b)の間は(c)は同一ならしめてあり且つ平行縁(a)(b)は平行で直線なるがため單に円突起、杆突起等の点の接点とならず本縁は直線の接線となる。即ち直線部分(a)及び(b)が構の直線部分の縁(x)(y)に對接しながら滑動するを以てスイッチの切換方向にガタつかずスムーズに滑動をさしむるものである。従つて、接点切換はスムーズに行はれるもので本縁の歯せる特徴である。従つてガタがなく、くろいも生ぜず完

# 公開実用 昭和49-91767

全なる端点切欠をなさしめる効果がある。

## 4. 図面の簡単な説明

ガ1図は本機スイッチの組立たら1部切欠上図。  
ガ2図は駆動軸杆に溝を設けた図。

ガ3図は動作片に連結部を設けたる正面図。

ガ4図は側面図。

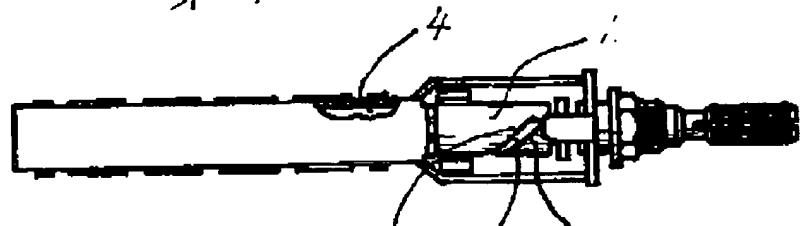
ガ5図は駆動軸杆の溝と連結部に設けた突起との関連をわかりやすく図示した図である。

(1)は駆動軸杆、(3)は溝、(4)は動作片、(5)は連結部、(7)は連結用の長円形突起、(a)(b)は突起の内側壁、(c)は(a)(b)間の間隔、(d)は溝の巾、(e)f)は溝の内壁である。

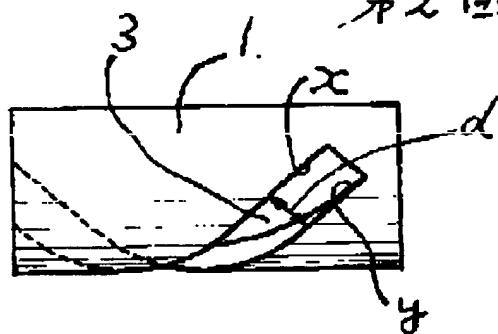
実用新案登録出願人： 三省電機株式会社

代理人・弁護士： 福地亮

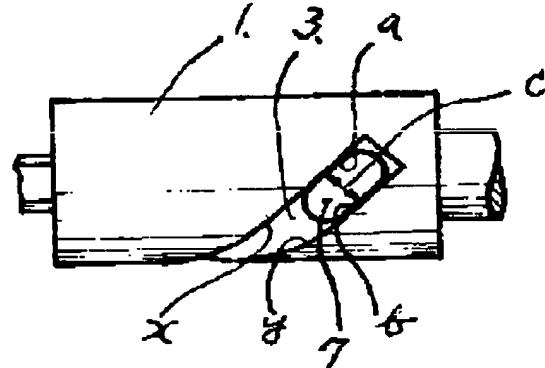
第1圖



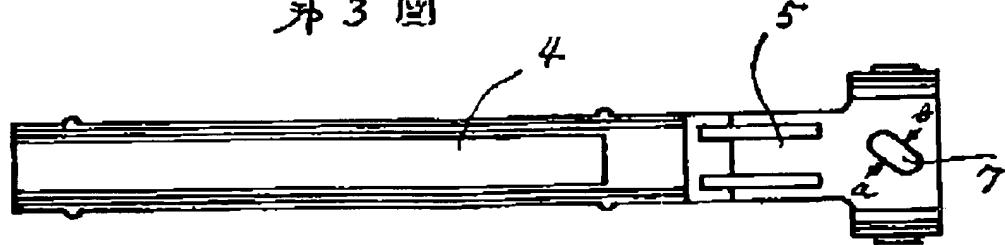
第2圖



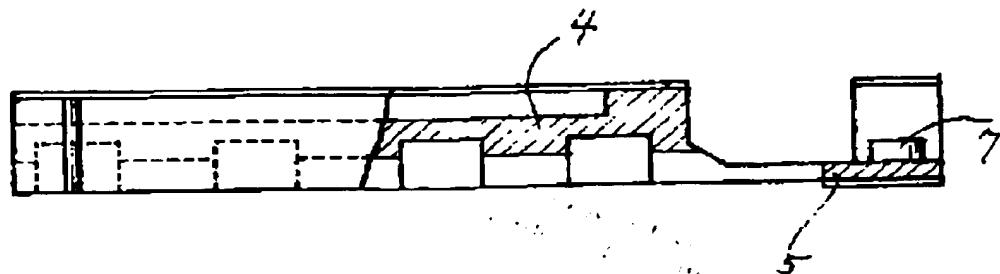
第5圖



第3圖



第4圖



实用新型登録出願人：“三省電機株式会社”  
代理人：井上士一  
立地：東京

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**